教育学部、それは一つの小宇宙

教育学部長
小笠原　道　雄

伝統ある本学教育学部へのご入学おめでとう。諸君が我が教育学部への入学を志望された理由は、いったい何だったのであろうか。おそらくその理由は、人によってさまざまであったに違いない。教育の荒廃を憂い「熱血先生」を目指して入学した人、あるいは不況の時代は学校の先生がオイシイとしたたかな計算をした人などなど…。

しかし、もう過去の理由をあれこれと詮索するのは止めることにしよう。諸君にとって大切なのは、「過去」よりも「未来」なのだから。

教育学部は、多様な知のパラダイムがハーモニーを奏でる一つの小宇宙（ユニバース）である。その証拠に、教官の専門分野は実に多岐にわたっている。N響のコンサートマスターだったバイオリニストがいるかと思えば、オリンピックの代表選手だった柔道家もいる。小児科のドクターもいれば、文学博士も教育学博士も理学博士も工学博士もいる。

広島大学には十一の学部があるが、これほどの多様性を有する学部は、他には見あたらないのではないだろうか。だから諸君は、若き知性のネットワークを、この小宇宙の隅々にまで張りめぐらすとよい。

社会構造も文化の様式も、ヒエラルキーの時代は終わり、これからはネットワークの時代である。そうした情報化社会では、多様なネットワークを通して多様な情報を収集することがサバイバルの要諦となる。しかしながら「情報」は、「情（なさけ）」を「報じる」と書くことに注意してほしい。

情報は、それを発信する人も受信する人も、共に血も涙もある人間である。それゆえ、「情け」のこもらない「情報」は、人の「心」と「心」を繋ぐメッセージとはなり得ない。情報化社会は、人の心の痛みのわかる「情けの社会」でもあるべきなのである。

諸君が大学を卒業する年は、ちょうど今世紀の最後の年に当たっている。つまり諸君は、来たるべき二十一世紀の扉を開く使命を担うことになる。その時に備えて、まずは体を鍛えよう。次に感性と知性を磨こう。そして情熱を燃やすのだ。諸君の健闘を心から祈っている。

（おがさわら・みちお）

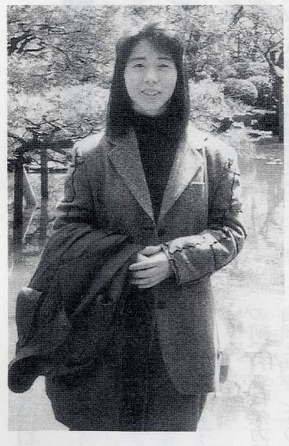
失敗こそ君（あなた）の未来への贈り物！

教育学研究科博士課程後期
山　本　愛　子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから皆さんは、この広島大学でさぞや自由を謳歌されることでしょう。しかしその自由は、常に不自由さと隣り合わせです。経験したことのない誘惑に悩んだり、さまざまな孤独感にさいなまれることも多いでしょう。けれどもそういった苦闘のなかにこそ、あなたの未来への贈り物が埋もれているのです。

「失敗は成功のもと」と言いますね。それはきっと失敗のなかに、将来花を咲かせ実を結ぶ（あなたの人生の糧となる）「種」が隠されているということではないでしょうか。きらびやかな見せかけの「花」や「実」に心を奪われてしまうと、真の自分自身を見失うことにもなりかねません。



「種」は小さくて、一見、見つけにくいものですが、あなたが意識的に心の目を開けば、それは人との出会いや日々のささやかな会話のなかにも見いだせるでしょう。他者の言葉に素直に耳を傾け、失敗から学ぼうとする気持ち、つまり、失敗に感謝する気持ちこそが大切なのだと思います。

人間を創りかつ育てる教育者が何より学ぶべきことは、まず自分自身の無力さと無能さを知ることだと言われます。人はそのことを通してはじめて他者の痛みを理解でき、傲慢にならずに学ぶことに感謝できるからです。

ですから皆さん、この大学時代に勇気を持ってさまざまな目標に挑戦し、常に視野を広く持ちながら、決して失敗を恐れずに、大いに失敗しましょう。そして何よりも、自分の宝となる「種」を発見できるよう、失敗に感謝する心を忘れないでください。

皆さんの大学生活が豊かな日々であります ようお祈り致しております。

（やまもと・あいこ）

瞬間、瞬間が四年間

学校教育学部長
間　田　泰　弘

入学おめでとう。

この日を迎えるまでの君たちの苦労は、人それぞれさまざまであったと思う。祝福するとともに健闘を讃えたい。しかし、君たちを取り巻く周囲の人たちの、見えない思いやりと支援があったことも忘れないでほしい。

教育界は現在、多くの問題を抱えており、将来を不安視する声もある。しかし、悲観的になることはない。意欲ある教員は常に求められ、常に活躍している。永遠に求められる。問題は、君たちがそれに資する人間になれるかどうかだ。

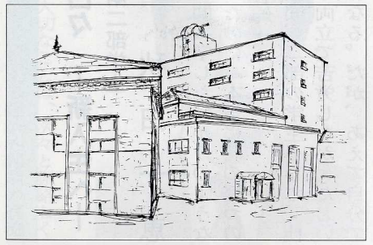
最近の若者について云々されることがある。それは学問上のことであったり、成人としての常識であったり、思いやりの心であったりする。いわゆる教養であろうが、この多様な時代にそれらを幅広く体得するのは容易でない。しかし今、君たちは絶好の機会に恵まれている。大学には自由がある。専攻する学問、社会勉強、クラブ活動等、さまざまなことが君たち自身の意志で体験でき、吸収できる。

もちろん遊びにも意義がある。理性を失わず、他人に迷惑をかけない限り寸暇を惜しんで遊ぶがいい。それも人間を大きくする。

しかし四年間は短い。心身を充実させるべき「今」という瞬間を繰り返して四年間になる。この瞬間を有意義に過ごそうではないか。

君たちの学習意欲と行動力は、改革し、発展しようとしている大学・学部にとっても、心強い支えになる。

（まだ・やすひろ）



学校教育学部 中学校教員養成課程 美術専攻 3年　有田哲也

人から人間に

学校教育学部学生
越　智　貴　子

新入生の皆さん、入学おめでとう。受験勉強という足枷が外れ、第二の人生のスタートラインに立った皆さんに、私の大好きな言葉を送りたい。「人生のカキクケコ条。『甲斐』生きがいを求めて、『奇異』自分らしく、『悔い』のないよう思いっきり、『敬意』他人を敬う心と、『恋』する心を忘れるな」である。

人の間と書いて人間という。人と人とが繋がって、結びついて、初めて人は人間になれるんじゃないかなあ。

以上は、実は金八先生の受け売りである。しかし、自由の身となり、自分のやりたいことを求めていける大学生になった今、周りの人とどう繋がって、どう結びついて人間になるか、是非考えてほしい。

また、一期一会という言葉どおり、たくさんの出会いを大切に、そしてその中から本当に自分に必要なものを探しだしてほしい。

我が愛する学校教育学部は、新しい仲間やさまざまなものとの出会いももちろんだが、新しい自分、忘れていた自分と出会える、一種異様な学部である。

これからの生活をどう活かすかは、自分自身にかかっている。まずは、G－Campで皆さんお待ちしています。

（おち・たかこ）

教育実習（コンピュータで画像処理）学校教育研究科 美術専攻　湯原　浩

贈ることば

学校教育学部学生
本　山　和　寿

季節の終わりとともに
新しい風が吹きはじめている
意志ある人を　次なる旅路に誘うように
遠くの街について
知識ばかりを聞いてても
あなたの風景は変わらない
不器用でも　歩きだせば
あなたの速さで景色は流れはじめる
多くの人々に出会い　自分を知る
初めての風を頬に感じて
優しくなれる
いつかの凪には気づくだろう
遠くまで伸びた自分の影に

（もとやま・かずとし）

絵：板城小学校第2学年
岩本たくま君